

## はじめに

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の具体をもっと知りたい」という先生方からの声を受け、本調査研究を行いました。

県内の山間地にある小規模校の上田市立菅平中学校と、都心にある私立の中高一貫校であるドルトン東京学園中等部高等部の視察を通して、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の具体を示すとともに、授業づくりと学校づくりの視点から考察を行います。

## 上田市立菅平中学校の授業づくり

上田市立菅平中学校では、目指す生徒の姿の1つを「自ら学ぶ子」としています。その具現に向けた取組の一つとして単元内自由進度学習に取り組んでいます。

### 生徒の学びの姿 (中学3年 数学)

授業が始まると、Aさんは学習計画表を確認し、自分で決めた学習カードに取り組みました。教科書をじっくり読んだり、端末でヒントを繰り返し見たりして、自分の学びを進めていきました(図1)。途中、 $8\sqrt{12}$ をどのように変形するかわからなくなったAさんは、教師に声をかけました。そして、教師によって示された端末上のヒントから、過去の学習を振り返ることで答えを導き出していきました。



図1 自分のペースで学ぶAさん



図2 友とやり取りしながら学ぶBさん

また、Bさんは、友に「ここって、どういうこと?」と声をかけ、自分の疑問点についてやり取りしながら学ぶ姿がありました(図2)。

生徒たちは、学習計画表を確認し、教科書だけでなく、教師が作った学習カードや端末上のヒント、解説・解答(図3)などを用いて、自分のペースで学んでいました。この姿は、何を手掛かりとするか、だれと学ぶか、どんなペースで進めるか等を自己決定する機会が保証され、生徒自身が学習を調整しながら取り組んでいたために現れたと考えられます。さらに、授業後も友にわからないところを質問する姿もありました。これは、学びの意欲が高まっていると同時に、安心して質問し合える関係が築かれていることにより、現れたものでしょう。



図3

また、教師は、すぐに答えを教えるのではなく、過去の学習を振り返るように促すなど、生徒とやり取りしながら、学びを支える役割を務めていました。

## ドルトン東京学園中等部高等部の授業づくり

ドルトン東京学園中等部高等部は2019年に開校された私立の中高一貫校です。ドルトンプランの「自由」と「協働」の理念を基に、「①主体的に学び、探究・挑戦し続ける生徒 ②多様性を理解し、他者と協働する生徒 ③自らの意思で積極的に新しい価値を創造し、広く社会に貢献する生徒」の育成を目指しています。授業では、教師から提示される学習の手引きを基にして、生徒自身が単元の学習計画を立てて学んでいます。

### 生徒の学びの姿 (中学1年 美術)

美術の授業では、「21×21×21の芸術～線をつなげて複雑な立体をつくる～」の課題に取り組んでいました。Cさんは、プリントに描きだしたデザインを基に、切った木材のパーツを重ね、試行錯誤しながら制作をしていました。隣のDさんは、別の形の作品を制作していましたが、2人は時折、声をかけ合い、作品の意図を説明するとともに、アドバイスをし合っていました(図4)。



図4

生徒たちは、思い思いに異なる形の立体を制作していましたが、互いの制作に関心を持ち、意図を伝え合う中で、言語化することによりメタ認知が高まったり、友の工夫を聞くことで新しい発見に繋がったりして、教室では活発にやりとりが行われていました。また、学習について尋ねると、生徒は課題の内容や自分の作品について詳しく説明することができていました。この姿は、学習の手引きを基にして、その題材でどんな力をつけるのか等を教師と生徒で共通理解していたからだと考えられます。さらに、この学習の手引きには、「プレゼンテーションで作品の意図や工夫を説明する」という課題も書かれており、協働的に学べるように、生徒がアウトプットする場面を教師が意図的に位置づけていました。

### 生徒の学びの姿（中学1年 数学）

Eさんは、テスト後の自己調整の時間（個々に委ねられた学習の時間）に、自分で選んだ苦手な問題に取り組んでいました。一方Fさんは、先取り学習で中学2年生の問題に取り組んでいました。Eさんは、解き進められなくなったとき、Fさんに声をかけ、「ここってどうやるの?」と尋ねました。Fさんは、Eさんに対して説明をしながら、ポイントとなる場面では、Eさんに「つまりどういうことだと思う?」（図5）と問いかけ、Eさんが理解しているかどうかを確認していました。



図5

2人は、自分の学びに立ち返ったり自分の学びたいことにさらに取り組んだりしていました。この姿は、「自分で学びを進める時間」や「自由に自分の学びを進めることができる時間」があることに加え、自身で学習計画を立てる学びを通して、学習を自己調整する力が育成されているからこそ見られたのではないのでしょうか。

ドルトン東京学園では、前述した①～③の具現に向けて、特色ある教育課程が編成されています。授業や学校生活のあらゆる場面で、生徒、教職員、そして保護者が、活動や対話を通して大切にしたい理念を共有しています。ドルトン東京学園の生徒の姿は、このような取組によって支えられていると考えられます。

菅平中学校、ドルトン東京学園では以下のように、授業づくり・学校づくりに取り組んでいます。



#### 菅平中学校の授業づくり・学校づくり

- ・自己決定や自己調整を大切にし、単元内自由進度学習等、自分で計画し実践しながら自分のスタイルを見つける授業づくり。
- ・生徒理解を根底に据え、「何のために取り組むのか」を明確にした授業づくり。
- ・地域の実態から課題を見いだし、探究的に取り組む総合的な学習の時間の実施。
- ・全校や連学年による道徳、全校朝学活等、多様な他者と学び合う機会を設け、全職員でサポートする。
- ・スキー科、英会話科などの地域の特色を生かした教育課程。



#### ドルトン東京学園の授業づくり・学校づくり

- ・生徒が自分で計画を立てて取り組む授業を、年間を通して実施。
- ・生徒が見通しをもって学ぶことができるように、教師は学習計画立案の助言をしたり、必要な環境を整えたりする等、間接的な支援を行う。
- ・学校生活におけるルールではなく、生徒が自分で判断し行動する。
- ・1授業時間を45分として、探究や自己調整の時間を生み出す教育課程。
- ・上級生から学ぶことを大切にしたい、異学年での探究の時間や、縦割り学年による生活集団を組織。

学校規模や立地環境が異なる2校ですが、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点からは、以下のような点が示唆されました。

#### 菅平中学校とドルトン東京学園の取組から示唆されること

##### ①計画性と主体性を伸ばす授業づくり

- ・生徒自身が計画を立て、自分に合った方法を決めて見通しをもって取り組む。
- ・自分の学びを調整しながら進めることで個別最適な学びを実現する。

##### ②他者との協働や学校の特色を生かした教育課程の編成

- ・異学年をはじめ、多様な他者と協働的に学ぶ場面を教育課程に意図的に位置付ける。
- ・地域の特色や生徒の関心に基づいた学習を通して、社会の課題の解決につながる資質・能力を育成する。

##### ③生徒の学びを支える教師の在り方

- ・目指す生徒の姿を共有し、生徒理解を基に、生徒の学びをサポートする。

#### おわりに

「学び」の主語は子供自身であり、自らの学習が最適となるよう子供自身が調整していくことが求められています。多様な個性や特性を有する子供が顕在化する中、学校の「当たり前」を見直す時期が来ていると言われていています。資質・能力の育成と共に、その生徒の姿を具現するために、どのような教育課程を編成するかという視点も入れながら、各校の特色を生かした授業づくりが大切なのではないのでしょうか。

自校の特色や強みを生かして、できることからまず一歩踏み出し、これまでの授業づくりや学校づくりを更新していきましょう。